

☆年間第12主日(6月25日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (エレミヤの預言 20章 10-13節)

(エレミヤは言った。)

わたしには聞こえています、多くの人の非難が。「恐怖が四方から迫る」と彼らは言う。「共に彼を弾劾しよう」と。わたしの味方だった者も皆わたしがつまづくのを待ち構えている。「彼は惑わされて我々は勝つことができる。彼に復讐してやろう」と。しかし主は、恐るべき勇士として、わたしと共にいます。それゆえ、わたしを迫害する者はずき勝つことを得ず、成功することなく甚だしく辱めを受ける。それは忘れられることのないとしへの恥辱である。万軍の主よ、正義をもって人のはらわたと心を究め見抜かれる方よ。わたしに見させてください、あなたが彼らに復讐されるのを。わたしの訴えをあなたに打ち明けお任せします。主に向かって歌い、主を賛美せよ。主は貧しい人の魂を悪事を謀る者の手から助け出される。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 5章 12-15節)

このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。律法が与えられる前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪と認められないわけです。しかし、アダムからモーセまでの間にも、アダムの違犯と同じような罪を犯さなかった人の上にさえ、死は支配しました。実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だったのです。しかし、恵みの賜物は罪とは比較になりません。一人の罪によって多くの人が死ぬことになったとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。

福音朗読 (マタイによる福音書 10章 26-33節)

そのとき、イエスは使徒たちに言われた。

「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい。体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

梅雨の季節が続いています。皆さまお元気のことと思います。日も長くなり(これからは短くなっていくのですが・・)暑さが増してきます。体調管理に努めましょう。今日は聖ペトロの使徒座への献金がお願いされています。これは世界中の信者の皆さんを導いておられるフランシスコ教皇様への感謝と祝意を表すとともに、教皇様の活動費や世界中で繰り広げられている宣教活動のために使われる活動費を賄うものです。ぜひいくばくかのものをお捧げしましょう。

さて今日の日曜日のミサでは何が語られるのでしょうか。ミサの集会祈願には「あなた(神)を愛して生きるものは見捨てられることがない」とあります。朗読を聞きながら考えていきましょう。

第一朗読 (エレミヤの預言 20章 10-13節)

預言者たちはその多くはイスラエルの民の主への反逆を断じる言葉を述べたために、迫害を受けました。エレミアもそうです。「多くの人の非難が。恐怖が四方から迫る。彼を弾劾しよう」と。「私が躓くのを待ち構えている」と。エレミアはとても辛かったでしょうが、耐えています。「私の訴えをあなたに打ち明け、お任せします」と祈り、「主に向かって歌い、主を賛美せよ」と呼び掛けるのです。この神との心の打ち明け、交歓が大事であり、神はその心に応えてくださるのです。エレミアの預言書の解説ではこのところは「エレミアの告白」と言われているそうです。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 5章 12-15節)

この手紙でパウロはイエス・キリストの救いの出来事がどのような意味を持っていたかを創世の書のアダムの創造主への反逆との対比で考えを述べています。被造物(アダム)でありながら自分こそ世界の中心であろうとした人間のおごりが招いた罪・原罪に対して、イエス・キリストの十字架での死はそれとは比較にならないほど「ゆるしの恵みと永遠の命の揺るがぬ源泉となったのです。いわば第二の創造です。飼い主のいない羊の群れのようにであった人類に、力強い羊飼いがもたらされたのです。この羊飼いは誰一人取りこぼすことのないように心を配られているのです。これが次の福音でイエスから伝えられる真理です。

福音朗読 (マタイによる福音書 10章 26-33節)

今日の福音では父なる神への信頼を訴えるイエスの言葉が響きます。真理に対する明らかな反逆者たちを恐れるなど、エレミアの預言を思い出させるような言葉が続きます。「体を殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな」とも呼び掛けています。そして小さな存在である雀や髪の毛一本についても父である神は心を砕いておられると言われます。私たち人間はそれ以上の存在であり、神が心を掛けられるほどの大切な存在なのと言わ

れます。その人間の救いのために遣わされたイエスだからこそ言えた言葉でしょう。「主への信頼」こそが私たちの信仰の神髄であるのです。恐れずに神から託された命、人生を歩み続けましょう。



アダム（池田宗弘作・東京都庁広場）2023年6月

P.S.

沖縄地方ではそろそろ梅雨明け。関東地方は3週間後の梅雨明けでしょうか。それにしても梅雨末期の大雨の被害がないように祈りましょう。感染症が広がっています。それぞれ気をつけてお過ごしください。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光